

ひろば伝言板」となったものですが、その経過を簡単にお知らせ致します。まず、夫々の団体の成り立ちですが、紫明学区各種団体連合会は昭和39年（1964年）に紫明学区の14団体で発足しました。初代会長には藤井和三郎氏が就任され、その後、市原桃雄、園田隆三、永田修二、狩野溢夫、木村栄一、中野良朗、小谷博仁、岡本良一の各氏が会長を引き継がれました。

「紫明伝言板」は紫明学区各種団体連合会により、平成8年（1996年）、第三代園田会長の時代に創刊されました（資料1）。年に一回又は二回発行され、平成29年（2017年）に第28号が発行されました（資料2）。

一方、紫明社会福祉協議会は昭和53年（1978年）に発足し、初代会長には前記紫明学区各種団体連合会の初代会長でもある藤井和三郎氏が就任されました。その後、西沢利一郎、森貞子の各氏が会長を引き継がれましたが、「紫明のひろば」は平成2年（1990年）、藤井初代会長の時代に創刊されました（資料3）。以来、こちらは年に二、三回発行されましたが、平成28年（2016年）の第76号を一応の区切りとして終了することとなりました（資料4）。

平成29年（2017年）4月に紫

明社会福祉協議会の体制が変わりましたが、「紫明のひろば」はそのまま第77号・第78号として発行が継続されました。しかし、その時には「紫明伝言板」も並行して発行されていたことから、学区内に広報紙が二種類あるよりも学区として一つにまとまって発行した方が良いのではとの意見が強くなり、「紫明のひろば伝言板」の名称で年三回発行する事となりました。

こうして、合併した新しい広報紙「紫明のひろば伝言板」が第79号として平成29年（2017年）10月からスタートしました（資料5）。

その後各団体のご協力により、本号発行をもちましてめでたく一〇〇号を迎える事が出来ました。

各資料は小さくて分かりにくいかと思いますが、各広報紙の第一頁と最終頁（編集後記）の縮小版をご紹介します。創刊当時はモノクロ印刷でしたが、平成の半ば頃から写真はカラーとなり、美しく、見やすくなりました。

これからも学区内のニュース、出来事、各団体の活動など皆さんの身近な話題を提供できるように編集委員一同頑張つてまいります。

今後とも「紫明のひろば伝言板」を宜しくお願い申し上げます。

かがやく子ども達の成長を願って

北少年補導委員会 紫明支部

支部長 富田美智子

「紫明のひろば伝言板」第一〇〇号の発行おめでとうございます。

平素より北少年補導委員会紫明支部の活動にご支援いただき、誠にありがとうございます。二学期に入り、恒例の秋のレクリエーションは、三重県津市の「おやつタウン」テーマパークへ約百名の参加で行きました。それぞれの味付けをして、スペシャルベ이스ターを作り、楽しい一日となりました。

また、昨年11月17日（日）の、北

少年補導委員会主催のスポーツ大会（ドッジボール大会・仏教大学にて）では、高学年の子供達20人が参加しました。みんなベストを尽くし最後まで頑張った結果、一勝一敗で終わりました。応援の皆様ありがとうございました。子供達の激戦の奮闘に感動しました。

その後、12月22日（日）午前「紫明ふれあいまつり」を開催しました。育友会ビーズ同好会のご協力も賜り、もの作りコーナーで楽しんで頂きました。また、育友会との共催による「とんとんで紙飛行機大会」で記録を出していただき、温かい豚汁をめし上がって頂きました。学区内の皆様のふれあいの場となり、友好を深めて頂けて良かったと思っております。

明けて、来る2月には、委員研修会として、京都市市民防災センターを見学する予定です。

今後におきましても、子供達の成長を見守りながら、活動を進めていきたいと思っております。日ごろより皆様の温かいご協力に感謝いたします。



自主防災会 総合防災訓練記録

紫明学区自主防災会

副会長 前田 健治

昨年11月17日(日)、午前8時に紫明校へ行き、当日開催される紫明学区自主防災会主催の総合防災訓練のための準備をした。昨夜の内に避難所となる体育館で、委員総出とも言える16人が参加して、大ビニールシートを敷くなど、約2時間にわたり、仕上げ作業を完遂していた。

午前9時過ぎになると、最初の町内会避難者が町内旗を先頭に避難所に入場してきた。ここからぐっと雰囲気が高まった。9時半前にはすべての町内が入場を完了した。参加者数は各町5人程度という案内を出し、40ヶ町で2000人に10人程度の余裕をみた受入体制を作っていた。しかし、5人より少ない町内もあれば多い町内もあるので、全体数が何人になるのか心配であった。係からの報告がきて、用意した席で余ったのはわずかに2人分ということ、予想は的中して正直ホッとした。

開会式は予定通り進捗し、いよいよ訓練が始まる段階となった。ここでスライドスクリーンを下ろし、新

入委員に作ってもらった音響入りの映像の投影を始めた。震度6強の地震が紫明学区で発生したという内容

である。それが終了して、参加者がそれまでのにこやかな雰囲気から、非常事態発生時の緊張した雰囲気に変わったところで、「今、みなさんは命からがらの避難所に逃げてきて、ここにあります。」という言葉から始めた。訓練では最初に、どのようにして避難所で過ごしたらいいのか、に関する知識を習得してもらうために、避難所での運営組織を説明し、全体を統制する「紫明避難所運営協議会」と、避難者全員で運営していく7つの実務班の存在と活動内容を説明した。単に説明するだけでは、そういうことか、と流れてしまうので、組織はどういう人で構成されているのか、について、役割を明記したゼッケンを着用した人を個別に提示して、ああ、こういう人達で運営されるのだなあ、という実感を感じてもらえるように配慮した。前日のリハーサルでは、うまくいかない点もあったが、本番ではそれを改善して、スムーズにいくように各委員が配慮してくれたことがとても頼もしく思えた。

避難所運営体制の説明の次に体験研修として、①ダンボールベッドの組立 ②入所届の記載 の2つの作

業を同時並行で、参加者全員に行ってもらった訓練に入った。

まず、ダンボールベッド組立については、町内毎に1名、組立を表示したゼッケンをつけてもらい、その方々には、後方の表示された6つのスペースに行つて、そこでチーフの指導のもと、組立作業に取りかかってもらった。それ以外の方々には、入所届用紙のセットされたバインダーを全員に配布し、それぞれ記入例を見ながら記載してもらった。但し、ちよつと注釈のいる箇所については、説明をした。この入所届の意義はこれを基に避難者数が計算され、支援の食事も配布されると説明して真剣に記入してもらった。20分ほどで記入もダンボールベッドの組立も終了したので、全員一列になって見学して、避難所内の個室スペースを見たり、組み立てられたダンボールベッドを見たり、乗ったりして感触を味わってもらった。

見学終了後、閉会式を行い、区役所と消防署の方々から訓練の講評をしてもらい、当会副会長からのお礼の挨拶で閉会式は終了した。それから退出の出口で給食配布訓練をした。用意した非常食を一人一人に手渡し、食物アレルギーの有無の問いかけをし、食物アレルギーに対する関

心呼び起こしてから、体育館を退出してもらった。それも町毎に列になって順序を委員がコントロールしながら、粛々と退出してもらった訓練をした。参加者のみなさんは委員の指示をしっかりと守って行動していただき、全体行動は非常にスムーズに進行することができた。訓練とはいえ、非常事態時の行動を整然とこなし、非常事態時の行動を皆様のご協力に深く感謝を申し上げます。



紫明避難所入所届の記入訓練

紫明センターご利用のお申込みは、左記までお願いします。

申込先 小林幹男「福そば」

電話 492-1120

時間 10時～19時

但し水曜日は休止

利用料 午前 1000円

午後・夜間 1500円

健康講演会の開催結果

紫明千歳会連合会

会長 津田正美

老人クラブの紫明千歳会連合会（第二千歳会及び第六千歳会）では、会員の皆様に健康に係る知識を得てもらうため、昨年9月9日（月）午後、北区社会福祉協議会事務所「健康講演会」を、会員23名の出席の下に開催しました。

講師は、当会員であり永年に亘り看護師として病弱者の立場に寄り添ってこられ、また介護職を目指す者への教養講座の講師をされている富田清子様です。「元気で長生きいきいきと楽しく〜認知症は怖くない〜」と題するお話を拝聴しました。多くの方に必要な認知症の知識、認知症との接し方や心構え、身近に起きている認知症を取り巻く苦労話など、実際の実例を挙げた分かり易いお話でした。ここで皆さんに知って頂きたい講演の主な要点を紹介します。

○人生一〇〇年時代。認知症は間もなく高齢者5人に1人になるとされるほど、誰もがなり得る病気です。

○認知症は老化による脳の病気の一つであり、単なる老化現象（軽い

物忘れなど）とは異なります。

○認知症の症状で共通するのは、脳の病変により知的能力が低下し、仕事や日常生活・社会生活に支障が出てくることです。例えば、同じことを繰り返す、食べたのに食べていないと言う、人を疑う、時間や帰る道順がわからなくなる、奇異な言動をするなどです。

○認知症の代表的なタイプは、①アルツハイマー型、②レビー小体型、③脳血管性型、④前頭側頭型の四つです。型によって症状（言動）が異なります。多いのはアルツハイマー型で、脳神経細胞が減少して脳が萎縮することにより、物忘れが進行し、新しいことが記憶できず、また時間や場所が分からなくなります。



○認知症の方への接し方は、個人差もありますが、「先ず認知症そのものを理解する。根気よく話を聴く。相手を頭から否定しない」ことなどが必要かつ大切になります。

○認知症を予防する薬は現在のところありません。また認知症を治す特効薬はありませんが、症状を遅らせるための薬は開発されており、多く処方されています。

○脳は幾つになっても成長すると言われます。日常生活の中で運動や脳トレなど、色々と工夫することは脳にとって必要なことです。「今日は人の身明日は我が身」の心境もあって会員たちから質問が相次ぐなど、意義ある講演会となりました。

紫明敬老会のご報告

紫明敬老会実行委員会

会長 柴山泰朗

学区の皆様方には健やかにお過ごしのことと思います。

昨年9月14日（土）、5年ぶりに敬老会企画イベントを学区内の部落解放センターホールにて開催いたしました。

当日は北区長、福祉部長、学校長などを来賓としてお招きし、学区内



の77歳以上の参加ご希望の方68名にお越し頂いて楽しいひと時をお過ごしいただきました。

内容は、まず、最高齢の方、米寿をお迎えの方をお祝いし、児童からの手紙を贈呈しました。お楽しみイベントとして、昔懐かしい南京玉すだれ、フラダンス、マジックショー、変面ショーが有り、その間には健康すこやか体操で手足を伸ばしていただきました。そして最後に桂雀三郎師匠の落語で笑って頂きました。

また、毎年行っていますように、敬老会とは別に、学区内の77歳以上のご希望の方481名に鶴屋吉信の祝菓子をお届けいたしました。

学区の皆様には支えられて開催しております紫明敬老会が無事に終わりました。ご高齢の方々には喜んでいただけたと思っています。

運動会のご報告

紫明体育振興会

会長 山田 祐仁



去る10月13日(日)、絶好の晴天のもと、第72回紫明学区民親睦大運動会を開催しました。体振役員一同、半年前から準備を重ねて参りました。皆様お楽しみ頂けましたでしょうか？

今年は新たな試みとして「みんなのテント」を設けました。参加町内が40ヶ町中31町と減っている一方で、不参加の町内にも競技に出たい方もおられることから新設しました。課題もありま

す。個人参加をきっかけに仲間が増え、再び町として参加いただければと願っております。

育友会・保護者の皆様のご協力のもと、8人6チーム2レース、合計96人の子たちが元気に走り切りました。大谷大学学生ボランティアの皆様には用具準備を中心に設営から撤収までご協力いただいたうえ、町対抗リレーにもゲストチームとして参戦、おおいに盛り上げていただきました。千歳会連合会の皆様には野点「紫明庵」で、お茶とお菓子のおもてなしをいただきました。紫明ならではの企画と、ご来賓の皆様にも大好評でした。

自主防災会、消防団の皆様には、救護、警備で安全・安心な運営にご協力いただきました。

グラウンドをお借りした京都教育大学附属小中学校の皆様、テント設営で全面的にご協力いただいた公益社の皆様、協賛いただきました皆様、競技進行にご協力いただきました盛り上げてくださいました紫明小学校の先生方、各種団体の皆様、町体育委員、協力委員の皆様にも、この場を借りて御礼申し上げます。

来年も多くの皆様のご参加をお待ちしております。



優勝した下内河原1区のみなさん



「北区魅力再発見事業 またぐきたくくなる紫明探検」 を開催しました

北区役所地域力推進室
まちづくり推進担当

川畑 大輝

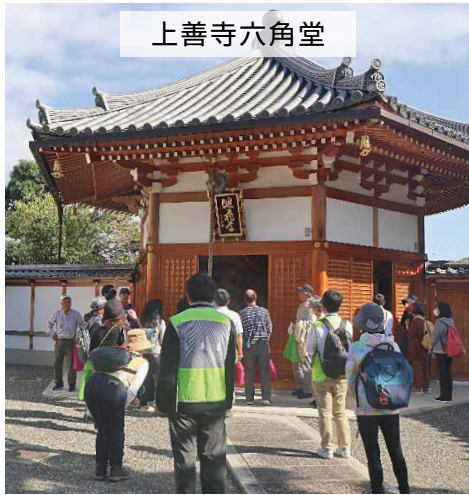
早速ですが、皆様は「北区魅力再発見事業 またぐきたくくなる〇〇探検」をご存知でしょうか。この事業は、北区にお住まいの方々の企画・運営による「まち歩き事業」です。範囲を学区内に限定して魅力スポットを巡ることで、参加者だけでなく、スタッフも地域のディープな魅力を再発見でき、また、参加者と地域住民のふれあいを通じて、「地域振興」と「つながる機会の創出」に貢献することを目的としています。毎年、北区内の学区の輪番制で開催しており、記念すべき10回目は、昨年11月4日に紫明学区で開催しました。

晴天に恵まれた当日は、紫明小学校を出発し、「磯垣タタミ」「大谷大学」「閑臥庵」「上善寺」「天寧寺」をはじめ、「御土居跡」や「近衛家別邸 御花畑屋敷跡」、中には入りませんでした。新村出博士旧宅「紫明会館」を巡る全長3km超の盛沢山の内容でした。紫明学区は、他に

〈お詫び〉大会プログラム冊子の賛助広告に不備がありました。ご関係の皆様にはたいへんご迷惑をおかけいたしましたこと心からお詫び申し上げます。今後は原稿ごとに確認者を定め、チェック体制を整えて再発防止に努めます。



天寧寺額縁門



上善寺六角堂

もせせらぎ公園や賀茂川の河川敷、複数の商店街など、魅力で溢れており、交通の便もいいので、私（川畑）は紫明学区にお住まいの皆様を心から羨ましく思っています。（話が逸れずみません）

今回は、40名の定員に対して4倍を超える申込みをいただき、参加者からは、「歩けば歩くほど発見のある地域だと分かりました」「普段、



閑臥庵



磯垣タタミ

何気なく通る道にも、素敵な場所、歴史があることに気付きました」などと大変好評をいただきました。

事業の開催に多大なるご尽力を賜りました紫明学区各種団体連合会の柴山会長、磯垣様、前田様をはじめ、交通誘導等にご協力いただいた自主防災会の皆様、本当にありがとうございました。

この事業は、令和7年度も別の学



新村出博士旧宅



大谷大学尋源館

区で開催予定です。詳細は市民しんぶん等でご案内しますので、皆様もふるってお申し込みください！

紫明探訪
磯垣タタミ 磯垣昇

北区魅力再発見事業「またきたく（北区）なる」の紫明探訪が11月4日（月・振替休日）に実施されました。

定員40名の所170名もの応募があり役員一同ビックリしましたが、抽選で40名の方にて紫明探訪していただきました。

紫明学区は今から110年程前に区画整理で出来た町で、それ以前は上賀茂神社の荘園で加茂六郷の一つ小山郷に出来た町です。

探訪当日は残暑の残った日でしたが、朝9時から西回りと東回りの2班に分けて紫明校を出発し、それぞれ学区内を大きく見て回りました。

探訪先は紫明校く校区に有ったお土居跡く鞍馬口町く上善寺く天寧寺く閑臥庵く磯垣タタミく近衛別邸（お花畑）く新村出博士旧宅く紫明会館く大谷大学でした。お土居から閑臥庵までは前田健治さんが、西側は磯垣が担当して回りました。

お土居は現在学区内では見る事が出来ませんが、道や高低差で解説して、その様子を想像して貰いました。上善寺ではお地藏様の解説、天寧寺では比叡山額縁門、閑臥庵では黄檗宗等の話を聞きました。そこから鞍馬口を西へ行き、磯垣タタミでは有職畳の御帳台等の解説をしました。

そのすぐ近くの鞍馬口室町には元近衛別邸お花屋敷跡（薩摩藩邸跡）が有ります。畳が400枚も敷かれた大きなお屋敷で、邸内では小松帯

刀が長州と薩長同盟を締結したとの話を聞きました。そこから広辞苑編纂者の新村出博士旧宅へ行き、新村出博士の思い出話を聞きました。衣棚通を北へ行くと、登録有形文化財の紫明会館です。内部を見学し、和装の学校であった事を聞きました。その後、疎水（紫明通り）から大谷大学前通り（桜道）を歩きつつ歴史話を聞き、尋源橋石柱を見て、大谷大学本館の尋源館へ。大谷大学様のご厚意で内部の礼拝室を見学しました。

最後に紫明校に戻り、解散致しました。参加者の皆さんは紫明学区の歴史を満喫されたことと思います。

福祉教育に 取り組む子ども達

紫明社会福祉協議会

会長 柴山泰朗

毎年、紫明小学校4年生を対象に、福祉教育を北区社会福祉協議会と紫明社会福祉協議会の合同で行っています。4年生の総合学習の一環として行うもので、福祉についての実践学習として、今年も身体障害の車いす体験（11月27日）、視覚障害の当事者の話と手引き体験（12月17日）を行いました。



段差の車いすは重い!

車いす体験では、車いすの扱い方、注意点などを学んだ後、児童が交代で実際に車椅子に乗る体験をしました。体育館にジグザグ路、段差路を作り、また、道路上に模擬障害物を設置して、注意しながら走行しました。体育館内に作られた自動販売機を車いすに乗った状態で操作するという体験もしました。

さらに、体育館を出て、職員用トイレまでの往復を、実際のスロープの上り下り、マット・砂地上の押し走行など、難しい状況も含めて実地走行体験を行いました。

後日、身体に障害を負っておられる方とZOOM（オンラインテレビ会議）でつながり、体験談を聞いたり、色々な質問のやり取りをして身体障害について知識を深めました。

一方、視覚障害の学習、体験では、体育館で、障害を負っておられる方から視覚障害についての話を伺ったりインタビュ形式で質疑応答を行い、視覚障害の知識を深めました。そして、実際に使われている福祉機器の説明を受け、直接触れて感じていました。その後、視覚障害の方を手引きする体験を行い、横断歩道の悪い見本や段差路、バス停での声かけなどを体験しました。

今回の学習で、障害のある方の身近な話を聞き、そして、車いす、手引きの体験をしたことにより、障害に対しての知識が深まったものと思います。子ども達が障害のある方に優しい気持ちで接してくれることを期待しています。



手引き体験 バスが来ます

編集後記

〇一〇〇号ということでも8頁に増頁させていただき、北区長様と校長先生からご祝辞を頂きました。ありがとうございます。

「歩み」の記事にもありますように、一時二つに分かれたもの無事統一を果たすという歴史もありました。最初の「紫明のひろば」創刊から35年、絶やすことなく刊行を続けてこられた先輩役員方の学区の皆さまに対する責任感を強く感じます。

〇今、生成AIの教室に通っています。それまでも自分なりにChatGPTなどを使っていましたが、プロの方から様々な使い方を教えられ、その通りに使ってみると、その能力の高さは想像以上でした。もっと使わなければ損と思う今日この頃です。この編集も近いうちに生成AIが代わってくれることになるかもしれません。密かに期待しています。(K)

